

# 未来の子ども達へつなぐ 「四季彩の杜づくり」

四季彩の杜をつくる会 代表 藤田 宏司



## ▼思いのバトンを受け取って

この会をつくるきっかけは、本活動山林のオーナーである山本勤氏との出会いです。山本氏はカナダのバンクーバーでの居住経験から、「カナダのような色鮮やかな美しい杜をつくり、そこに子ども達に喜んでもらえる散策路や並木道もつくりたい」との思いを抱いていました。

その思いは、山本氏が当別町青山にある離農跡地を購入したことで、このプロジェクトが動き出しました。

石狩市森林組合を中心として既に活動を行っていた「厚田里山再生の会」の仲間の協力もあり、平成29年7月に「四季彩の杜をつくる会」が発足。荒れ果てた地を見晴らしの良い、子ども達が安全に過ごすことができる広葉樹の杜をつくり変える活動が動き出しました。

## ▼試行錯誤と強い思いの活動

荒れ果てた地を広葉樹の杜へ転換することは、前例がない取組であったため、「苗木を成長させるためには？」「鳥獣被害から守るためには？」と試行錯誤の繰り返しでした。

今年で7年目となるこの活動は、毎月2回、年間約15回の現地活動を行っています。当初はうっそうとしていた山林が、これまでの活動で

見違えるほど広く、見晴らしの良い杜になり、苗木の定着率は90%を超えてきました。ようやく未来につながるための基盤づくりが整いつつあると感じています。

先日、石狩振興局森林室主催の「下刈り作業の省力化に向けた現地研修」の会場として協力したところ、訪れた多くの林業関係者から、「四季彩の杜」の整備管理に対する高い評価をいただきました。

## ▼活動継続に直面する問題

これまでこの活動を行うための資金源は、林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金が大半を占めています。毎年立てる事業計画に基づき整備を行っているため、範囲以外の区画整備は、会員の皆さまからの支援と整備時に伐採した薪材の販売収益から補填し、活動しています。

この交付金は



見晴らしの良い景観が安らぎを与える

永年続く約束はありません。目標とする未来の子ども達へつなぐ四季彩の杜の管理システムをつくり上げる活動資金、設備資金について考えていかなければいけないことが視野に入ってきました。この活動に賛同していただける方々のご協力が必要です。

## ▼未来につなげる、 広葉樹の杜がもたらす効果とは

広葉樹はゆっくり時間をかけて、緻密で重く、硬い木に成長します。また、鳥、昆虫、小動物など、多様な生物の生息地となり、生態系改善が期待できるほか、広葉樹が落とした葉が肥しとなり、土壌を改善。丹念な育成と管理を行うことで、しっかりと土壌に張った根が災害に耐える杜をつくっていきます。

また、見晴らしの良い安全な杜で自然や動物と触れ合う体験は、子ども達に持続可能な幸福をもたらすとされ、ストレス軽減、免疫機能の向上に期待できると言われています。

私たちが取り組む「四季彩の杜をつくる会」の活動が、北海道のモデルケースとなるよう、未来につながる活動を続けていきます。



四季彩の杜 3D 100haの広大な四季彩の杜 提供：石狩市森林組合